

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 25 日現在

機関番号：23804

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26780227

研究課題名（和文）技能系老舗同族企業における存続と衰退に関する研究

研究課題名（英文）Study on continuation and decline of long-established engineering family firms

研究代表者

曽根 秀一（Sone, Hidekazu）

静岡文化芸術大学・文化政策学部・講師

研究者番号：70634575

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、技能系老舗企業、特に国内外の鑄造企業を中心に、その存続と衰退について研究を行った。その背景には、これまでわが国における老舗企業研究が商家研究に偏っていたことがあげられる。

そこで、本研究は明治維新以前から存続するわが国の鑄造企業5社、英国の老舗鑄造企業2社、ドイツ5社、イタリア1社残存していることを明らかにし、更にフィールド調査を行うことで、その実態や特性を明らかにした。また、技能系企業ならではの存続要因の1つとして、技能と経営の一体や分離が影響していることも史料等からも明らかにした。これらの成果は、著書、査読付きも含めた論文、学会報告などで行った。

研究成果の概要（英文）：In this research, centering on long-established engineering firms, especially domestic and foreign casting companies, we studied on the continuation and decline of those companies. In the background there was the fact that the studies on long-established firms in our country have inclined toward studies on merchant houses in the past. Therefore, in this research, we clarified that five Japanese casting companies, two English long-established casting companies, five German companies and an Italian company have been continuing since before the Meiji Restoration, and also clarified the actual situations and characteristics after conducting a further field survey. These results have been published in books and papers including with peer review, and presented at academic conferences.

研究分野：経営組織論

キーワード：鑄造業 組織文化 老舗企業 国際比較 技能伝承 事業承継

1. 研究開始当初の背景

本研究の研究開始当初の背景には、これまでの老舗企業研究の通説が以下のように色濃く残っていたものであった。

まず、老舗企業研究における企業の存続は、歴史研究及び定量研究アプローチと結びつけて論じられてきたことがあげられる。歴史研究アプローチはいわゆる老舗企業に注目し、商家研究や会計研究といった歴史的研究を基盤として展開されてきた。

この歴史的研究に共通するのは、老舗企業群に残存する家訓や家憲から合理的な近代的組織の基盤を家訓に見出そうとする点である。

それに対して、1980年代以降多くみられるようになった定量研究アプローチは、老舗には家訓が残存するという既存研究の仮説をもとに、老舗企業の共通属性及びその平均値を見い出そうとした。例えば神田・岩崎(1996)、横澤編(2000)などでは、資源依存論(resource-based view)の立場から、100年以上の老舗企業に対する定量研究を通じて、家訓や屋号、同族支配が老舗企業の競争優位として指摘された。

この2つの研究成果が相俟って、今では、家訓・店則が老舗企業の存続要因であるとする見解が、老舗企業論の通説的見解となっている。

さらに、先行研究では、研究対象を京都の商人系老舗企業を中心とし、長期にわたる過程の変化などをみていく経年的分析が依然不十分であり、克服すべき課題も明らかになった。そこで、曾根は、商人系老舗企業ではない、建築企業を中心に論じてきた。しかしながら、このことは、特定分野に限定され、技能系企業を論じる上では不十分であると考へ、本研究課題を遂行してきた。また、欧米においては、ファミリービジネス研究というかたちで、わが国における老舗企業研究と共通のロジックのもと議論がなされてきたため、ファミリービジネス研究にも着目しながらも研究を行うこととした。

2. 研究の目的

上記で示した先行研究に基づく課題から、本研究では、地域を京都に限定せず、商人系ではなく技能系の老舗鐘鋳造企業を研究対象とし、各社の伝統的組織と近代の組織の比較をインタビューや史料調査を交えながら行うこととした。

さらに、市場や技能の変化、技能と経営の人材の育成に着目し、存続の要因を探った。これらの明治維新以前から存続してきた梵鐘鋳造企業は、わずか5社しか残ってなく(近年解散したA社も含む)江戸期まで幕藩体制に守られ、ほぼ同規模であったこれらの企業になぜ差異が生じたのか、経年的にこれらの企業が鋳造を営む際に構築する他者との関係を通じて、存続と衰退のメカニズムに着目し論じていくこととした。技能系老舗企業、

特に国内外の鋳造企業を中心に研究を行った。

本研究では、国際比較を通じて、より広い視点で老舗企業を論じるため、わが国に明治維新以前から存続する鐘鋳造企業5社に加え、英国の老舗鋳造企業2社、ドイツ5社、イタリア1社残存していることから、これらの企業との比較調査を行うことで、その実態や特性を明らかにしていくこととした。また、技能系企業ならではの存続要因の1つとして、技能と経営の一体や分離が影響していることも史料等からも明らかにした。これらの成果は、著書、査読付きも含めた論文、学会報告などで行った。

3. 研究の方法

本研究は、「研究目的」において示された内容のもと、具体的に以下のような計画の下で研究を推進した。

初年度は、主に組織文化論、資源依存論、制度論に着目しながら、老舗企業論、ファミリービジネス論、鋳造業、技術史といった幅広い視点から、文献渉猟と整理を行った。

さらに、鋳造企業に関する研究は技術史的な研究は散見されるものの経営学分野においては皆無に等しく、国内外の鋳造企業の存在そのものの調査を行う必要があった。その後、企業の洗い出しを実施し、わが国の鋳造業と同様にわずかながら世界各地に老舗鋳造企業が存在していることを確認することが出来た。

これらから得た情報をもとに、国内外の各企業へのアクセスと同時に、詳細なフィールドワークを行い、インタビューや一次史料も多分に含んだ資料収集を行った。また、レビュー論文の作成と分析枠組みの構築を行っていった。

これらの理論研究、フィールドワークを通じて、経営学における多様な研究分野を網羅するとともに、現在の理論・経営問題を俯瞰し、それぞれに必要な方法論的検討を行った。その基礎的ベースとなるのが、老舗企業研究、同族企業研究、制度論である。また、研究協力者となる各大学の研究者及び老舗鐘鋳造企業の当主(経営者)やそのステイクホルダーとなる建築会社や寺社とは長年、協力関係にあり、信頼関係を構築してきたため、これらのつながりをいかしながら研究を進めていった。

4. 研究成果

上記の本研究課題をもとに、フィールドワークで蓄積されたケースを分析、検討、改定し、ここから得られた研究成果は、(1)学会報告、(2)学術誌、(3)著書、(4)ワーキングペーパー(リサーチペーパー)として発表された。

(1) 学会発表

各研究領域における理論的検討は、国内外

の学会で報告を行い、さらなるブラッシュアップを図った。海外の研究者（カナダ、スペイン、フィンランド）とも積極的に連携をとりながら共同研究を行い、論文公刊や学会報告できたことは、本研究の検証や発展に寄与しただけではなく、本研究分野の国際的発展の水準を見極めることができたとも考えている。

具体的には、国内では、当初の予定通り、本研究テーマに密接に関連する組織学会、ファミリービジネス学会等で報告した。

組織学会では、理論研究ならびにファミリービジネスに関するモデルの構築を近年着目される Sarasvathy の提唱する、エフェクチュエーションと「家」の存続戦略をリンクしながら、存続優先のファミリーアントレプレナーシップのプロセスについて論じた。

ファミリービジネス学会では、2年連続で報告を行った。2015年には、純血型中小ファミリー企業の革新的マネジメントに着目した。曾根が担当したファミリービジネス研究、老舗企業研究のレビューに関する報告も併せて行い、これらの研究に不足している点を明らかにした。2016年には、ファミリービジネスにおける事業承継研究とファミリーアントレプレナーシップ研究の両研究の系譜を論じるとともに、両研究を俯瞰する企業家活動プロセスについて理論的考察を行った。その結果、後継者の企業家活動プロセスとして、先代経営者への資源依存、事業機会の認識と評価、事業ドメインの再定義、必要資源の獲得と動員という新たな研究上の論点が明らかにされた。

また、2015年に『一橋ビジネスレビュー』において、ファミリービジネス特集が組まれたが、そこで執筆した内容をビジネスパーソン（ファミリービジネス経営者）を中心とした読者向けに報告を行い、企業の長寿性に関して整理を行うことができた。さらには、招待講演も含め、異なるジャンルの方々からも貴重なコメントを得ることができた。

海外においても、IFSAM（International Federation of Scholarly Associations）では、コーポレートガバナンスの視点からわが国特有のファミリービジネスに着目し、論じた。

SMEUCE（Sustainability Management of e-Business and Ubiquitous Commerce Engineering）では、2014年と2016年において発表を行い、わが国の老舗企業における特徴や海外企業との比較を論じることで、海外以外の研究者から貴重なコメントを得た。

AJBS（The Association of Japanese Business Studies）においては、欧州の研究者3名と共同研究を行うことで、わが国とスペインの技能系企業の比較を行うことができた。その他研究会等でも海外研究者とディスカッションを行い、研究をさらに発展させることができたと考える。

（2）学術誌

これらの学会ならびに研究会などにおける報告、発表で得たコメントをもとにして、査読付き論文を積極的に投稿した（査読付は3件）。

まず、本研究課題が見出す新たな分析枠組みとしての研究が、経営史分野で国際的に最もインパクトファクターの高い英国の学術誌、“Business History”に査読付き論文として掲載を実現した（2015年）。本論文では、理論と事例（4社の比較研究）を重ねて論じた。また、これまで老舗を英語表記して論文投稿した場合、Long-Standing firm や Old-Established Company などで論じてきたが、今回“Shinise”という単語をそのまま用いて、採択され、わが国の文化の発信に寄与するとともに、老舗企業研究に一定の貢献ができたのではないかと考える。

次いで、純血型中小ファミリー企業の革新的マネジメントに着目した研究では、とくに、創業者と後継者の戦略・トップマネジメント活動の比較分析を行い、『ファミリービジネス学会誌』に査読付き論文として、公刊された（2015年）。

また、技能系企業の秩序構築主体としての企業家らに着目し、そのメカニズムなどについて論じたものを『イノベーション・マネジメント』に、査読付き論文として掲載した（2015年）。

その他にも技能系企業に着目しながら、その実態や事例研究、一次史料（古文書翻刻含む）など、蓄積を重ねていった。

（3）著書

経営学として体系化した著書の出版を念頭に計画していった。具体的事例を分析し、経営学および諸関連の理論を用いて、これらを含む先端的な議論の論文レビューを行った。具体的には、以下の書籍があげられる。

ファミリービジネス研究、老舗企業研究の理論的基盤としてまとめられた『日本のファミリービジネス：その永続性を探る』（中央経済社）を出版した（2016年）。同書は、わが国でも数少ないファミリービジネス研究を各ジャンルごとにまとめたものであり、曾根は、本研究と関連して調査を行ってきたイタリア最古の企業といわれる鑄造業の Marinelli 社を事例に、当主のインタビューも交えながら、ファミリービジネスの存続と後継者育成について論じた。

また、経営学の理論的見地からビジネスシステム論について論じ、まとめられた『日本のビジネスシステム：その原理と革新』（有斐閣）を出版した（2016年）。ビジネスシステム論は、各産業や企業において散見されるが、曾根は、老舗企業、ファミリービジネスのビジネスシステムを事例にあげ、詳細に論じた。

(4) ワーキングペーパー

本研究課題は、老舗鑄造業というこれまで論じられてこなかった分野を扱うため、先行研究が極めて乏しかった。これらを鑑み、一次史料調査、インタビュー調査といった丹念なフィールドワークを行う必要があった。そのため、これらの研究活動から得られた研究成果の多くは、主に連携研究者でもある、同大学の上村雅洋教授、吉村典久教授と共著で和歌山大学経済学部のワーキングペーパーにおいて発表されてきた。

具体的には、鑄造業ならびにそれに関連および隣接した分野への事例に関しては4件、理論的研究などに関連するものについては2件まとめられた。

こうしたワーキングペーパーの成果をまとめ上げることで、それを具に議論を重ね、学術論文としても十分な水準を維持することができるような水準を担保してきた。実際、定期的にワーキングペーパーとしてまとめ、またそれらの事例をもとに、論文や本(共著)に公刊していった。

なお、方法論的検討もまた有意義であると考え、方法論的検討によって、本研究テーマに参考となる点を見いだすことができた。つまり、個別の研究領域を超えて検討すべき課題は、経営学における各研究領域を越えた検討が可能になると考えるためである。

そこから得られた成果を論文ならびに書籍等に反映するとともに、2017年度以降の公刊予定の成果物にもこれらのデータを組み込み、発展させていくこととする。

以上、本研究当該期間において示した成果(業績)は、学会等での発表、報告は11件(国内6本、海外5本)、論文公刊13件のうち査読有のものは3件(国内2件、海外1件)、書籍は3件であった。また、本報告書には記載していない少規模の研究会における報告も複数回行った。これらの成果を通じて、わが国における研究水準の確認と国際的評価向上に一定の貢献ができたものとする。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計13件)

磯田 道史, 曾根 秀一, 吉村 典久 (2017)「浜松最古の老舗企業 株式会社杉浦建築店: 22代目杉浦兼太郎氏、23代目杉浦悦郎氏にきく」『和歌山大学経済学部 Working Paper Series』No.16-07, 1-44.

曾根 秀一 (2016)「老舗企業研究の変遷にかんする準備的研究: 家訓、家憲を中心に」『静岡文化芸術大学研究紀要』第17巻, 39-46. URL: https://suac.repo.nii.ac.jp/index.php?action=repository_action_common_download&item_id=1370&item_no=1&attrib

ute_id=18&file_no=1&page_id=13&block_id=17

曾根 秀一 (2016)「昔から創業家とはよくもめた? 日本のファミリービジネス史と創業家の乱」『企業会計』第68巻第11号, 31-38.

上村 雅洋, 曾根 秀一 (2016)「(史料紹介)四天王寺宮大工文書(七)」『和歌山大学経済学部 Working Paper Series』No.16-06, 1-6.

曾根 秀一, 吉村 典久 (2015)「ファミリービジネスの後継者をつづじた存続戦略」『和歌山大学経済学部 Working Paper Series』No.15-04, 1-19.

曾根 秀一 (2015)「世界最古の企業 金剛組の叡智に学ぶ: 伝統産業のビジネスシステムから見た長期存続の条件」『一橋ビジネスレビュー』63巻2号, 70-88.

山田 幸三, 江島 由裕, 曾根 秀一 (2015)「純血型中小ファミリー企業の革新的マネジメント: 創業者と後継者の戦略・トップマネジメント活動の比較分析」『ファミリービジネス学会誌』第4号, 19-37. (査読有)

曾根 秀一, 吉村 典久 (2015)「老舗宮大工企業の存続および戦略にかんする調査: 安井空工務店代表取締役安井洋氏、取締役久佐崇氏にきく」『和歌山大学経済学部 Working Paper Series』No.15-03, 1-16.

Sasaki Innan, Sone Hidekazu (2015) "Cultural Approach to Understanding the Long-Term Survival of Firms: Japanese Shinise Firms in the Sake Brewing Industry", Business History, Vol.57, 1-17. (査読有)

曾根 秀一, 高橋 勅徳 (2015)「秩序構築主体としての企業家: 株式会社千金堂の事例分析を通じて」『イノベーション・マネジメント』No.12, 67-82. (査読有)

山田 幸三, 江島 由裕, 曾根 秀一 (2015)「純血型中小ファミリー企業の革新的マネジメント: 中小企業経営革新支援法認定企業における創業者と後継者のマネジメントの比較分析」『Discussion Paper Series, Economic Research Society of Sophia University』59号, 1-17.

曾根 秀一, 吉村 典久 (2015)「わが国生産拠点の海外展開と国内帰帰」『和歌山大

学経済学部 Working Paper Series』
No.15-02, 1-23.

曾根 秀一, 吉村 典久 (2015)「The role of stakeholders in the succession of business」『和歌山大学経済学部 Working Paper Series』No.15-01, 1-10.

〔学会発表〕(計 11 件)

曾根 秀一 (2016)「世界最古の企業 金剛組の事業承継と組織構造：25 代是則から 40 代正和まで」企業家ミュージアム講座「企業家学」, 2016 年 12 月 3 日, 企業家ミュージアム (大阪府).

Liao Mei Hua, Xu Yu-Ci, Sone Hidekazu (2016) "Old-established Companies' Traditions and Innovations: Focusing on e-Business of Japan and Taiwan" SMEUCE2016, 2016 年 7 月 6 日, 福岡工業大学 (福岡県).

小林 康一, 秋澤 光, 曾根 秀一 (2016)「持続優先のファミリーアントレプレナーシップのプロセス」組織学会, 2016 年 6 月 12 日, 兵庫県立大学 (兵庫県).

Yoshimura Norihisa, Horiguchi Tomonaga, Sone Hidekazu (2016) "Employee's ongoing Commitment to better Performance on the Corporate Governance: Case study of Japanese Enterprises" IFSAM2016, 2016 年 5 月 18 日, Universidad Autónoma Metropolitana (Yucatan, Mexico).

曾根 秀一 (2015)「世界最古の企業 金剛組の叢智に学ぶ」第 5 回一橋ビジネスレビュー・スタディセッション, 2015 年 10 月 1 日, 一橋大学・学術総合センター(東京都).

山田 幸三, 江島 由裕, 曾根 秀一 (2015)「純血型中小ファミリー企業の革新的マネジメント」ファミリービジネス学会第 8 回年次大会, 2015 年 9 月 12 日, 慶應義塾大学 (神奈川県).

曾根 秀一 (2015)「経営学の広がり：老舗ファミリー企業」上海麗拓実業有限公司セミナー, 2015 年 7 月 16 日, HIDA 関西研修センター (大阪府).

曾根 秀一 (2015)「長寿企業の伝統と革新：経営戦略論、組織論、史的な観点から」帝塚山大学公開講座, 2015 年 2 月 14 日, 帝塚山大学 (奈良県).

Sone Hidekazu (2014) "Studies on Japanese style management and long-established firms" 和歌山大学経済学部、山東大学経済学院共同研究会, 2014 年 12 月 18 日, 和歌山大学 (和歌山県),

Sone Hidekazu, Sasaki Innan (2014) "Study of e-business and long-established companies in Japan" SMEUCE2014, 2014 年 7 月 3 日, Birmingham City University (Birmingham, UK),

Sone Hidekazu, Dolores Tous Zamora, Guillermo Bermudez Gonzalez & Sasaki Innan (2014) "How does the localized, relational social capital affect the survival of firms over financial crisis? : Comparison of the construction industries from Spanish and Japanese local regions" AJBS 2014, 2014 年 6 月 21 日, Westin Bayshore (Vancouver, Canada).

〔図書〕(計 3 件)

ファミリービジネス学会編 (2016)『日本のファミリービジネス：その持続性を探る』「第 6 章 ファミリービジネスの持続と後継者育成」中央経済社, 107-126.

忽那 憲治・山田 幸三編 (2016)『地域創生イノベーション：企業家精神で地域の活性化に挑む』「第 4 章 伝統的地場産地における最後発からの世界展開：広島県・白鳳堂の熊野筆の商慣習脱却と産地内波及効果」中央経済社, 113-143.

加護野 忠男・山田 幸三編『日本のビジネスシステム：その原理と革新』第 7 章 長寿企業の家族的経営の力：金剛組の超長期持続の叢智」有斐閣, 149-167.

〔その他〕
ホームページ等

静岡文化芸術大学文化政策学部教員紹介
<http://www.suac.ac.jp/education/teacher/culture/sone.html>

帝塚山大学経営学部経営学科教員紹介 (非常勤講師)
<http://www.tezukayama-u.ac.jp/teacher/gyoseki/970000.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

曾根 秀一 (Sone, Hidekazu)
静岡文化芸術大学・文化政策学部・講師
研究者番号：70634575

(2)連携研究者

吉村 典久 (YOSHIMURA, Norihisa)

和歌山大学・経済学部・教授

研究者番号：40263454

上村 雅洋 (UEMURA, Masahiro)

和歌山大学・経済学部・教授

研究者番号：00151837